（様式１）

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和5年度分）

＜県の評価等＞

施設所管部名　　地域連携・交通部

１　指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立熊野古道センター（尾鷲市大字向井字村島12番４）
指定管理者の名称等	特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク 理事長　林　伸行（尾鷲市野地町12番27号）
指定の期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1)センターの事業の実施に関する業務 2)センターの利用許可等に関する関する業務 3)センターの利用に係る料金の収受に関する業務 4)センター施設等の維持管理及び修繕に関する業務 5)センターの管理運営上必要と認める業務

２ 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R4	R5	R4	R5	
1　管理業務の実施状況	B	B			熊野古道及びその周辺地域に関する情報発信や交流の拠点として、歴史、自然、文化等の地域資源を活用した様々な企画展や体験学習、講座・講演会、地域内外との交流イベント等を実施している。 また、来館者が快適な環境で利用できるように日々の巡回や定期点検等を実施するとともに、省エネ・省資源等の環境負荷低減策にも取り組むなど、施設の維持管理を適切に行っている。
2　施設の利用状況	B	B		＋	年間来場者数は111,570人（目標達成率97.0%）で概ね目標を達成した。また、貸館等による施設稼働率は69.7%（目標達成率139.4%）で目標を達成した。 特に貸館による利用者数は11,055人であり、令和4年度の6,375人から73.4%増加している。
3　成果目標及びその実績	B	B			成果目標8項目のうち6項目で目標を達成している。特に令和4年度は達成できなかった東紀州地域外での成果発信について、積極的な情報発信に努め、目標を達成している。一方で来場者数は企画展等の来場者数が少なかったため目標値から3,430人（3.0%）下回った。また、学校連携事業は予定していた3校の出前授業が、季節性インフルエンザ感染症の流行により学年閉鎖となったため1校しか実施出来なかったことにより、目標値から2校（8.0%）下回った。

※「評価の項目」の県の評価　：

「＋」（プラス）　→　指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「－」（マイナス）→　指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「　」（空白）　→　指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	1　成果目標に対する達成度 成果目標8項目のうち、6項目は目標値を達成したものの、「来場者数」、「学校連携事業」は目標値を下回った。 2　残されている課題 社会見学や体験学習等の機会も生かしながら、東紀州地域内外においてセンターの存在や活動内容等のPRをして認知度をさらに高めることなどにより、センターへの来場をより一層促す必要がある。 また、熊野古道世界遺産登録20周年を契機として、新しく魅力的な事業の企画や各事業の一層のPRに努め、新たな熊野古道ファンやリピーターを獲得し、来場者数の増加につなげる取組を進める必要がある。 さらに、学校連携事業について、熊野古道の価値を次世代に伝えていくためにより一層積極的に取り組む必要がある。 3　その他 （1）利用者ニーズの把握及び事業等への反映 アンケート等により利用者ニーズの把握に努め、運営に生かす仕組みが機能していることから、利用者の満足度は高い数値（98.2%）を維持している。また、関係機関や地域団体と連携することで、企画展や体験学習等の取組をより魅力的なものにしている。 （2）施設の適正な維持管理の実施 日々の巡回や定期点検を行い、良好な維持管理に努めるとともに、省エネルギー対策にも継続して取り組んでいる。 （3）危機管理 消防署と連携して自主防災訓練等を行い、災害等緊急時における救急救命方法や消火設備の操作方法を確認するなど、職員の対応能力向上を図っており、適切な危機管理を行っている。 4　総括 成果目標のうち2項目が未達成であり、上記2の課題も残されているものの、令和4年度に達成できなかった成果目標である「地域の歴史・文化に関する情報収集・集積の成果発信」の一部について、令和5年度は東紀州地域内外で積極的に発表の機会を増やし、同目標を達成している点は評価できる。 また、現指定管理者は、これまで指定管理を担った17年間で積み重ねたノウハウを生かして、熊野古道及びその周辺地域の魅力を広く発信しているとともに、地域の資源を活用した企画展や体験学習、講座・講演会等を実施している。その他、地域の魅力を新たに掘り起こし様々な形で紹介したり、交流拡大につなげるなど地域の振興に寄与しているほか、小中学校への出前授業等を企画するなどの次世代育成にも取り組んでいることから、三重県立熊野古道センターの管理者として適切な運営を行い、実績を残していると評価できる。

＜指定管理者の評価・報告書（令和5年度分）＞

指定管理者の名称：特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク

1 管理業務の実施状況及び利用状況

（1）管理業務の実施状況

①熊野古道センター事業の実施に関する業務

1．情報収集・集積、発信事業
熊野古道伊勢路沿線に立つ道標や石仏についての調査及び情報発信、尾鷲市三木里町から熊野市有馬町までの熊野古道伊勢路の詳細な調査を実施し、叢書『熊野灘沿いの峠越えを行く』を発行した。東紀州5市町の自然・歴史・文化等に関しては、海と山を結ぶ交易の道として機能した「塩の道」に係る調査、発信事業を行った。
2．交流事業
5月にゴールデンウィークドリームフェスタと題して、人工壁クライミング体験、クッブ体験などを実施した。11月には「熊野古道センターをきれいにしている仲間たちの作品展・パネル展」「おわせ海・山ツーデーウォーク」を開催した。また、熊野古道音楽祭として「ハープ弾き歌い＆フルートの調べ」を開催するなど、計140回の事業を実施した。
体験学習では、地域内外の小中学生に対して、尾鷲ヒノキを活用したもの作り体験を開催、毎週日曜日に開催する「日曜わくわくものづくり体験」、相可高校の先生と生徒に学ぶ「料理教室」、地域の自然について学ぶ「熊野古道自然学校」など計132回開催し、1,576名の参加者を集めた。
講座・講演会は「新熊野学講座」や「山歩き講座」、古文書を解読し、くずし字を学ぶ「古文書からひも解く地域の暮らし」など計35回開催し、967名の参加者を集めた。
3．情報発信事業
ア）企画展
熊野古道伊勢路や東紀州5市町の自然・歴史・文化に焦点を当てた企画展6回及び特別展示室企画展5回を開催した。単なる展示にとどまらず生業や暮らしの変化、祭りや宗教など歴史的・民俗的な視点から考察を加味した展示とした。
イ）情報誌等の発行
熊野古道センター主催事業を中心に自然や歴史に関する話題に触れた『三重県立熊野古道センターからのてがみ』を4回発行した。熊野古道伊勢路を紹介するハンドブック第4弾として『くまのみちを歩く・四～熊野灘沿いの峠越えを行く～』を発行した。
ウ）ポスター・チラシ等によるPR
企画展や交流事業を広く広報するためのポスター・チラシを17点作成し、県内外の関係機関に配布し、周知に努めた。
エ）マスメディアによるPR
地域の新聞社やテレビ局の協力を得て、熊野古道センター主催事業などのPRに努めた。

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

1．施設及び設備の維持管理
職員による日常の点検及び定期点検を実施し、異常箇所があれば速やかに改善するよう努めた。専門的な技術を要する設備に関しては外部事業者に委託し、保守管理を行った。館内及びトイレの清掃については、平日は障がい者自立支援施設の通所者、土・日、祝日はシルバー人材による業務のもと、適正に維持管理した。
2．施設及び設備の修繕
空調設備に関する不具合が頻繁に発生し、外部事業者により対処・修繕した。三重県が発注した修繕に関する業務は「自動ドア改修工事」と「雨水排水路修復工事」の2件であった。
3．今後の見通し
空調機器に関しては経年劣化に伴う故障・不具合が頻発していることから中・長期的な計画を立てて修繕していく必要がある。また、使用電力及びCO_2排出量を削減するための具体的な取組として、館内照明設備をLED化するとともに、空き地を活用した太陽光発電といった代替エネルギーの設備導入も必要である。

③県施策への配慮に関する業務

1．人権尊重のための取組
職員、来館者、関係者などすべてのステークホルダーを尊重した行動を徹底する。
2．男女共同参画社会の実現への取組
職員がその適性に応じて能力を発揮できるよう、男女ともに企画、広報、庶務等様々な業務を経験することとしている。
3．持続可能な循環型社会の創造に向けた取組
温室効果ガス削減に向けた取組として、ゴミの削減、分別を徹底し、かつ節電のために電気や空調機器の適切な使用に職員一丸となって取り組む。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

1．情報公開に関する業務
三重県立熊野古道センターに関する情報公開実施要領に基づき対処した。令和5年度は開示請求はなかった。
2．個人情報保護に関する業務
三重県個人情報の保護に関する法律施行条例を遵守するとともに、個人情報保護規定に基づき、個人情報を慎重にかつ適切に扱った。

⑤その他の業務

該当なし

(2)施設の利用状況

施設名	利用件数	利用人数
企画展示室	0	0
映像ホール	15	357
会議室	44	114
和室	47	135
体験学習室	89	598
小ホール	78	2,681
大ホール	146	7,170

2 利用料金の収入の実績

施設の利用料にかかる収入額は、551,215円で、利用料の減免については、8件ですべて承認した。

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R4	R5		R4	R5
指定管理料	69,841,000	69,833,000	事業費	6,224,938	5,907,496
利用料金収入	572,620	551,215	管理費	66,990,253	63,966,681
その他の収入	2,389,626	665,294	その他の支出	0	0
合計 (a)	72,803,246	71,049,509	合計 (b)	73,215,191	69,874,177
収支差額 (a)-(b)	△ 411,945	1,175,332			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	35,600

4 成果目標とその実績

成果目標及び実績

項目	目標	実績	達成率(%)
1 施設稼働率(%)	50	69.7	139.4
2 来場者数(人)	115,000	111,570	97.0
3 地域の歴史・文化に関する情報収集・集積の成果発信			
1)東紀州地域内での開催(回)	10	17	170.0
2)東紀州地域外での開催(回)	2	2	100.0
3)県外での開催(回)	1	3	300.0
4 国内外の世界遺産登録地等との連携事業(回)	2	3	150.0
5 学校連携事業(校)	25	23	92.0
6 利用者の満足度(%)	95.0	98.2	103.4

※施設稼働率算出式＝利用日数/開館日数×100
(企画展示室、映像ホール、会議室、和室、体験学習室、大ホール、小ホールが利用対象。
内部打ち合わせ、映像ホール定時上映利用を除く)
※来場者数は、センター以外の会場で実施した事業の参加者を含む。

今後の取組方針

令和6年度は熊野古道世界遺産登録20周年の節目であることから、熊野古道伊勢路の魅力と東紀州地域の自然・歴史・文化等の情報発信をこれまで以上に積極的に実施したい。国内外の世界遺産登録地等との連携事業に関しては、和歌山県、奈良県の行政や民間諸団体と連携し、熊野古道の魅力発信等に取り組みたい。

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R4	R5	
1 管理業務の実施状況	B	B	基盤となるビジターセンター事業については、職員一人ひとりが積極的に熊野古道を歩き、最新の情報収集を行い、来館者や電話による問い合わせに対応できるように努めた。自主事業については熊野古道伊勢路とその周辺地域の自然・歴史・文化等の情報収集に取り組み、企画展示や叢書刊行により発信し、さらに、地域住民との交流を図るために、多種多様なイベントを実施した。施設管理については燃料費、光熱費が高騰する中、職員一人ひとりが省エネについて意識し、一丸となって節電・節約に努めた。設備、機器等については空調機器の不具合が多発する中、サービス低下につながらないよう速やかに対応した。
2 施設の利用状況	B	B	主催事業では企画展、体験教室等を開催し、貸館事業では地域内外の団体・機関等に展示会場や楽器演奏会など多様な活動に利用していただいた。大空間を利用でできることと、安価で使用できることが好評で、地域住民の交流の場として定着しつつある。
3 成果目標及びその実績	B	B	来場者数に関しては、移動展示や他所でのイベント実施など熊野古道伊勢路の魅力発信、交流事業に尽力したが、企画展及び特別展示室企画展の入場者数が少なかったため、目標値には届かなかった。学校連携事業に関しては、予定していた3校の出前授業のうち2校で季節性インフルエンザが流行し学年閉鎖となったため、1校しか実施出来ず、全体での目標値25校に対して実績値23校と目標値を下回った。

※評価の項目「1」の評価：

「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 業務計画を順調に実施している。
「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価：

「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 当初の目標を達成している。
「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	1. 成果目標に対する達成度 来場者数及び学校連携事業に関しては目標値を下回った。来場者数に関してはセンター以外での展示やイベントを積極的に実施したほか、魅力ある展示や交流事業を展開したが、企画展及び特別展示室企画展の入場者数が少なかったため目標値に届かなかった。 学校連携事業に関しては予定していた3校の出前授業のうち2校で季節性インフルエンザが流行し学年閉鎖となったため1校しか実施出来ず、出前授業が計画通り実施できなかったことにより目標値を下回った。 2. 残されている課題 来場者数に関しては7、8月の夏休み期間中に小中学生を対象としたロビー展示や工具の使い方を習得するものづくり体験を実施するなど、子どもの来場者数を増やすよう努める。学校連携事業に関しては尾鷲市内の小学校4校へ出前授業を実施するなどして目標達成に努める。 3. 翌年度に取り組むべき成果目標の設定 令和6年度は熊野古道世界遺産登録20周年の節目であることから、熊野古道伊勢路の魅力の発信をはじめ、地域の活性化に寄与するような記憶に残る事業を展開していきたい。 4. その他 ①県民の平等利用の確保 当施設は入館無料のビジターセンターであり、また、多種多様なイベントを展開しているので、県内外すべての人々に来館していただけるよう開館している。 ②施設の維持管理の実施 専門的な知識を要する機器、設備については業者に委託し、保守点検・管理を行っている。 館内清掃については、障がい者自立支援施設の通所者やシルバー人材センターに委託している。 その他、設備や機器の日常点検、定期点検は職員が実施し、異常があれば即時対応するようにしている。 ③県民ニーズの把握及びその後の事業等への反映 すべての事業で実施するアンケートや、来館者へのアンケート結果を踏まえ、改善すべき所はすぐに対処し、ニーズに応えるようにしている。クレーム、苦情に対しても真摯に受け止め、即時対応するよう努めている。 ④県民サービスの向上 利用者目線に立った案内や展示及びイベントを目指している。また、県民が何を求めているのかを職員一人ひとりが意識し、情報発信に努めている。 ⑤コスト削減の取組 高騰する電気料金については、空調の調整や無駄な照明の消灯などを徹底し、節電に努めている。また、不要な紙の使用や、不要なコピーを減らすよう努めている。 ⑥危機管理体制の確保 消防署の指導を受けながら防災訓練を実施し、消火設備の使用方法や救急救命措置を学ぶなど、有事の際の対応能力向上を図り、危機管理体制を確保している。 ⑦業務体制の整備 専門知識を有した学芸員や図書館司書などを配置している。また、イベントなどの事業や貸館事業が滞りなく円滑に実施できるよう、適材適所の業務体制を整えている。